

医師臨床研修「地域保健・医療」の成果と課題に関する研究

分担事業者 嶋村清志（滋賀県甲賀保健所長）

【現状把握と成果作成グループ】

荒田吉彦（旭川市保健所長）、南部由美子（福岡市東保健所長）、廣田洋子（北海道岩見沢保健所長）、田上豊資（高知県中央東福祉保健所長）、和田行雄（京都府山城北保健所長）、山中朋子（青森県弘前保健所長）、大橋俊子（栃木県東保健所長）、服部悟（愛知県豊川保健所長）、永井恵（東京都大田区保健所長）、高橋郁美（東京都台東区保健所長）、伊地智昭浩（姫路市保健所長）、柳尚夫（兵庫県洲本保健所長）、中川昭生（島根県益田保健所長）、宇田英典（鹿児島県鹿屋保健所長）

【指導者研修会・人材確保育成グループ】

伊藤善信（秋田県秋田中央保健所長）、中西好子（東京都健康安全研究センター所長）、伊地智昭浩（姫路市保健所長）、毛利好孝（兵庫県健康局医務課長）、岸本益実（広島県北部保健所長）

【要旨】 医師臨床研修制度のあり方に関する検討会（座長：高久史麿氏）の議論を受け、厚労省および文科省ではこれまで必修科目であった「地域保健・医療」研修を除外し、病院や診療所だけに限定した地域医療研修へと変更された。研修の状況が激変する 22 年度および 23 年度の地域保健・医療研修の現状を把握するべく調査を実施したところ、任意研修として少なからず残ることが判明した。「地域保健・医療」研修のあり方を検討しつつ、研修指導者開発ワークショップも実施し、公衆衛生医師の人材確保につながるような方策についても検討することとした。

【目的】

各保健所等で実施している「地域保健・医療」研修も 5 年を経過し、その制度が定着してきたところである。しかし、医師臨床研修制度のあり方に関する検討会（座長：高久史麿氏）の議論を受け、厚労省および文科省ではこれまで必修科目であった「地域保健・医療」研修を除外し、病院や診療所だけに限定した地域医療研修へと変更されることとなった。

そこで、研修の状況が激変する 22 年度および 23 年度の全国の地域保健・医療研修の現状を把握し、今後の「地域保健・医療」研修のあり方を検討した。調査結果を受けて、研修指導者開発ワークショップも継続して実施し、公衆衛生医師の人材確保につながるような方策についても検討することとした。

【方法・結果】

（1）研究班会議の開催

研究事業を一体的・効果的に進めるために、分担事業者と事業協力者から意見を伺い、事業計画や推進方法などの戦略会議を開催した。また成果の報告と評価も行った。

第 1 回班会議 平成 21 年 7 月 21 日(火)：東京

・昨年度事業の報告と今年度事業の内容検討

・研修指導者開発ワークショップの検討

第 2 回班会議 平成 21 年 10 月 22 日(木)：奈良

・全国調査の中間報告

・研修指導者開発ワークショップ開催に向けた進捗状況

・医学部教授訪問に関する検討

中間報告会 平成 21 年 12 月 7 日(月)：東京

・実施状況の中間報告

第 3 回班会議 平成 22 年 1 月 28 日(木)：東京

・実施状況の報告および成果について

・報告書（案）の作成について

（2）「地域保健・医療」研修に関する全国調査

1) 全保健所を対象とする調査

20、21 年度の状況および 22 年度の予定、さらに激変する 23 年度以降の研修医の受け入れ予定について、全国 510 カ所の全ての保健所を対象にアンケートを実施し「地域保健・医療」研修の現況を調査した。研修の受け入れの可否、期間等について調査を実施した。

2) 上記 1) の調査結果から保健所での「地域保健・医療」研修が、任意での選択研修として少なからず残る地域（保健所）があることが判明した。また、積極的・独創的に実施している「地域保健・医療」研修の事例も提供していただいた。これまでの実績として目に見える形で集約し、任意で実施されるであろう新しい「地域保健・医療」研修の中で、その理念や方略を組み込んでもらえるような資料集として、事業報告書を兼ねて各保健所に配布する予定である。

（３）研修指導者開発ワークショップの実施

少なくとも平成 22 年度（21 年度 2 年目研修医）までは「地域保健・医療」研修は必修であることから必修プログラムとして、また、調査結果から 23 年度以降も何らかの形で研修医を受け入れる保健所があることから、選択科目としてのプログラムを意識したワークショップを実施した。「地域保健・医療」研修の中で効果的かつ、現実的に実施できるような方略としての 1 週間コースなども想定した。

なお、保健医療科学院での歯科医師を対象にした指導医研修が予定されていないため、歯科医師の指導医養成のための「地域保健・医療」研修も大阪会場にて実施した。

1）東京会場（全国町村会館）

- ・日時：平成 21 年 11 月 6 日（金）～11 月 7 日（土）
- ・参加者：医師 18 名

「地域保健・医療」研修指導者開発ワークショップ（医科・東京）



2）大阪会場（新大阪丸ビル新館）

- ・日時：平成 20 年 10 月 30 日（金）～10 月 31 日（土）
- ・参加者：歯科医師ら 11 名

「地域保健・医療」研修指導者開発ワークショップ（歯科・大阪）



（４）公衆衛生医師の人材育成、人材確保に関する意見交換・医学部教授等への訪問

公衆衛生医師の人材確保に向けて医学部公衆衛生学教室における卒前教育と地域保健研修を実施している保健所での卒後教育のあり方を検討するため、研究班員の地元の医学部公衆衛生学教室の教授等を訪問し意見交換を行った。中長期的な公衆衛生医師確保策と人材育成について検討し解決策を模索した。

【考察・まとめ】

・医師臨床研修「地域保健・医療」の成果と課題の詳細は発表会当日資料及び報告書により報告する。

・「地域保健・医療」研修指導者開発ワークショップについては調査結果から 23 年度以降も何らかの形で研修医を受け入れる保健所があることから、選択科目として効果的に実施できるような方略を提供できるよう 1 週間コースなど短期コースを想定した研修プログラムの開発が必要である。

【今後の計画】平成 22 年度地域保健総合推進事業指定課題事業として、医師臨床研修における「地域保健・医療」の成果と課題（保健所研修のあり方、研修プログラムの開発等）で引き続き検討していく予定である。

【発表】

・嶋村清志「研修医とともにまなぶ」公衆衛生 第 72 巻第 4 号～第 73 巻第 7 号

・嶋村清志ほか 公衆衛生従事医師の確保・育成に向けて 公衆衛生 第 73 巻第 7 号

なお、本年度の結果については日本公衆衛生学会、全国保健所長会等において、随時報告する予定である。

「地域保健・医療」研修の理念

地域の先生や地域の人々から生き方を学ぶ

「医師は医師だけから学ぶものではなく患者や住民から学んでこそ良医になれるもの」

「人は人から学ぶもの」

研修医とともに学ぶ 医学書院

平成21年度地域保健総合対策事業 地域保健推進検討会 医師臨床研修「地域保健・医療」の成果と課題 に関する研究班

結核審査会(大谷藤郎先生)
国民健康保険団体連合会
信楽中央病院
僻地診療:多羅尾出張診療所
信楽荘(老人ホーム)
診療所研修
近江学園(宿泊研修)
産業廃棄物処理場
動物保護管理センター
食肉衛生検査所
女性陶芸家 神山清子氏宅
製薬メーカー
毒劇物(企業)
断酒会



分担事業者
滋賀県甲賀保健所
嶋村清志

医師臨床研修「地域保健・医療」の成果と課題に 関する研究班 全国調査の背景

厚生労働省および文部科学省の「医師臨床研修制度のあり
方検討会(高久史磨座長)」議事録によると

「保健所や療養施設みたいな所は地域医療に入れないこと
をはっきりさせたい」と。

必修科目であった「地域保健・医療」研修から、保健だけを
除外し病院や診療所に限定した「地域医療」研修に変更。

問2 平成23年度以降(平成22年度から始まる新制度の臨床研修医受入れ)につい
て、貴保健所における研修医受入れ期間は以前と比較してどう変わる予定で
すか。以下の選択肢から最もあてはまるものを選びください。

- ア 長くなる予定である。 イ ほとんど変わらない予定である。
ウ 短くなる予定である。 エ 受入れはなくなる予定である。
オ その他() カ 現時点ではわからない。

研修医の受け入れ期間は？	回答数	回答率
長くなる予定である	0	0.0%
ほとんど変わらない	53	20.6%
短くなる予定である	12	4.7%
受入れはなくなる	34	13.2%
その他	10	3.9%
現時点ではわからない	140	54.5%
無回答	8	3.1%
計	257	100%

医師臨床研修「地域保健・医療」の成果と課題に関する研究班

1) 全国調査

全国のすべての保健所(510カ所)対象
平成23年度以降の受け入れ状況について
アンケートを実施。

現在 273カ所から回収済み

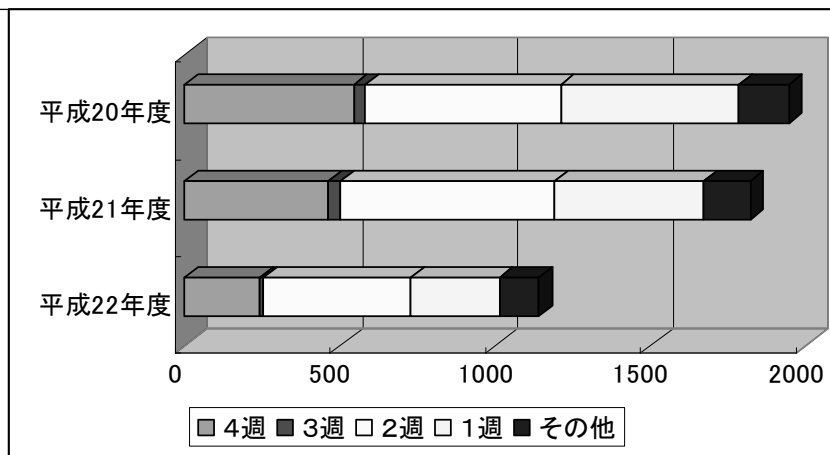
任意での選択研修として残る可能性あり

2) 全国調査

上記アンケートと併せて、積極的・独創的に研修
を実施している方略を紹介していただき共有する。
選択研修の方略として役立てて頂く。

過去の研修医の受け入れ人数・受け入れ期間

	4週	3週	2週	1週	その他	合計
平成20年度	546	37	628	573	163	1947
平成21年度	463	39	690	480	150	1822
平成22年度	244	11	473	286	127	1141



地域保健研修が必修でなくなったことに対する意見

意見区分	回答数	回答率
今回の決定は望ましくない	109	48.9%
保健所研修は今後も継続する	6	2.7%
選択研修が望ましい	13	5.8%
研修内容の課題	14	6.3%
研修期間の課題	4	1.8%
学部教育の充実	13	5.8%
臨床を重視すべき	12	5.4%
やむをえない	16	7.2%
研修の負担は大きかった	15	6.7%
その他	8	3.6%
計	223	100%

地域保健研修が必修でなくなったことに対する意見

「地域保健・医療」が必修でなくなることは、結果として若い医師が医療対策の全体的な動きを知る機会が減少することになり好ましくない。

これから臨床医として活躍する医師には、地域保健研修の必要性は高い。期間は1～2週間と短縮しても、必修とすべきと考える。

とても残念である。地域医療と地域保健は意味合いが異なり、医師の資格を持った上での保健研修は将来に向けても意義深いものだと考える(実際過去に保健所研修を実施した研修医は全員臨床面での有用性を感想として述べている)。臨床研修全体の見直しもあるが、専門分野以外で選択の中に1か月の保健所研修は入れるべきであると考えます。

地域保健研修が必修でなくなったことに対する意見

プライマリ・ケアを中心に幅広く医師として必要な診療能力を身につけることを目的とする臨床研修医制度においては、少子高齢化社会の到来や保健医療を取り巻く環境の変化に対応し、地域住民の健康の保持及び増進に取り組んでいる保健所で保健予防に関する知識を習得することは、今後臨床医として活躍する人にとっても、患者に全人的な対応をする意味で貴重な経験となっている。

医療現場において視野が限定されがちな研修医に対し、母子保健や精神保健福祉、感染症対策など、実際の現場での保健衛生事業・業務への参加を主流とする本所での研修は、公衆衛生に関する視野を広げることのできる唯一の機会でもあり、公衆衛生を志す医師の確保の点からも、残念なことと考えている。

臨床研修病院に対する「地域保健研修」実施の働きかけ等		
意見区分	回答数	回答率
積極的な働きかけ	14	29.8%
研修委員会でのアピール	8	17.0%
プログラムの工夫等	4	8.5%
研修継続の方向	6	12.8%
現時点で取り組みなし	11	23.4%
その他	4	8.5%
計	47	100%

医師臨床研修「地域保健・医療」の成果と課題に関する研究班

3)「地域保健・医療」研修指導者開発ワークショップ

平成21年8月7日 厚生労働省医政局医事課事務連絡。
 医師臨床研修に係る指導医講習会の開催指針に則ったものとして確認済み。修了者には修了証を交付。(最終回)

- ①平成21年11月6日(金)～7日(土)
 参加者:医師18名 全国町村会館(東京)
- ②平成21年10月30日(金)～31日(土)
 参加者:歯科医師ら11名 新大阪丸ビル新館(大阪)

「地域保健・医療」研修指導者開発ワークショップスタッフ(医科:東京)

■ 実行委員長: 澁谷いづみ

(全国保健所長会長、愛知県半田保健所)

■ 副委員長: 毛利好孝

(兵庫県健康福祉部健康局医務課)

タスクフォース:

■ 伊地智昭浩(姫路市保健所)

■ 嶋村 清志(滋賀県甲賀保健所)

■ 伊藤 善信(秋田県秋田中央保健所)

■ 浦山 京子(江東区保健所)

■ 中西 好子(東京都健康安全研究センター)

「地域保健・医療」研修指導者開発ワークショップ(医科:東京)



「地域保健・医療」研修指導者開発ワークショップ(医科:東京)



「地域保健・医療」研修指導者開発ワークショップスタッフ(歯科:大阪)

■ 実行委員長: 澁谷いづみ

(全国保健所長会長、愛知県半田保健所)

■ 副委員長: 毛利 好孝

(兵庫県健康福祉部健康局医務課)

タスクフォース:

- ・伊地智昭浩(姫路市保健所)
- ・嶋村 清志(滋賀県甲賀保健所)
- ・伊藤 善信(秋田県秋田中央保健所)
- ・足立ちあき(兵庫県健康福祉部健康局医務課)
- ・河本 幸子(岡山市保健所)

講師

- ・浦山 京子(江東区保健所)
- ・中西 好子(東京都健康安全研究センター)
- ・井下 英二(滋賀県健康福祉部健康推進課)

「地域保健・医療」研修指導者開発ワークショップ(歯科:大阪)



医師臨床研修「地域保健・医療」の成果と課題に関する研究班

4) 公衆衛生医師の人材確保、人材育成に関する意見交換・医学部教授等訪問事業

目的

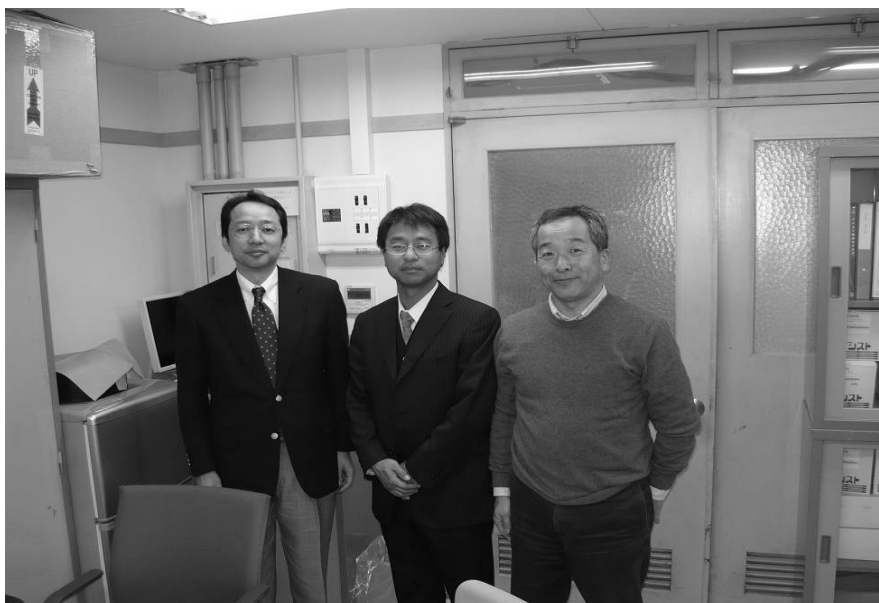
公衆衛生医師の人材確保に向けて医学部公衆衛生学教室における卒前教育と地域保健研修を実施している保健所での卒後教育のあり方を検討するため、地元の医科大学公衆衛生学教室の教授等を訪問し、意見交換(聞き取り等)を行うことにより、中長期的な公衆衛生医師確保策と人材育成について検討し、解決策を模索する。

意見交換・訪問実施予定期間

平成21年11月11日～平成22年1月末日まで

班員名	所属	意見交換・訪問予定大学 訪問年月日
嶋村清志	滋賀県甲賀保健所	滋賀医科大学医学部保健福祉学教室21.11.19 滋賀医科大学医学部社会医学講座予防医学部門21.11.19
廣田洋子	北海道岩見沢保健所長	北海道大学医学部医療システム学教室21.12.08 北海道大学医学部公衆衛生学教室 21.11.14 札幌医大医学部公衆衛生教室 22.01.05
和田行雄	京都府山城北保健所長	京府医大医学部保健予防医学教室公衆保健科学部門 21.12.01
山中朋子	青森県弘前保健所長	弘前大学医学部社会医学講座 22.01.25
大橋俊子	栃木県県東保健所長	獨協医大医学部公衆衛生学教室22.01.13 自治医大医学部公衆衛生学教室21.12.18 岩手医大医学部公衆衛生学教室21.11.24 (メール) 浜松医大医学部健康社会医学教室21.01.22(メール)
服部 悟	愛知県豊川保健所長	名古屋大学大学院医学研究科 予防医学/医学推計・判断学 教室 22.01.29(メール)
永井 恵	東京都大田区保健所長	東邦大学医学部公衆衛生学教室22.01.25
高橋郁美	東京都台東区保健所長	日本大学医学部社会医学系公衆衛生学教室21.12.14
柳 尚夫	兵庫県洲本保健所長	大阪医大公衆衛生学教室21.12.18
中川昭生	島根県益田保健所長	島根大学医学部公衆衛生学教室21.12.07
宇田英典	鹿児島県鹿屋保健所長	鹿児島大学医学部公衆衛生学教室21.12.02

公衆衛生医師の人材確保、人材育成に関する意見交換・医学部教授等訪問事業
滋賀医大医学部 社会医学講座三浦先生、衛生学埴田先生を訪問



公衆衛生医師の人材確保、人材育成に関する意見交換
医学部教授等訪問事業(11名の班員が15大学16教室へ)

議論) 平成23年度以降(平成22年度から始まる新制度の
臨床研修医受入れ)について、貴大学では、研修プログラ
ムに地域医療研修とは別に、任意で選択できる「地域保
健研修」を計画されているでしょうか？

ア 考えている 1教室 イ 希望者があれば考える 3教室
ウ 考えていない 5教室 エ 現時点ではわからない 3教室
オ その他 4教室

議論) 今回の見直しで「地域保健・医療研修」から、「地域
保健研修」が必修ではなくなったことについて、大学として
はどのように思われていますか？

今回の見直しで「地域保健・医療研修」から、「地域
保健研修」が必修ではなくなったことについて、大
学としてはどのように思われていますか？

残念。現場を経験、理解する機会が奪われることは
ダメージが大きい。地域においては、保健、医療、福
祉の連携が重要である。研修がなくなれば、地域保
健の重要性がわからない。学生実習とは質が違う。

必修でなくなったことは良くないと思うが、そう考えら
れてしまうのも仕方がないのではないかな。

毎年どのくらいの研修医が、どのような保健所研修
をしているのか知らない??

公衆衛生医師の人材確保、人材育成に関する意見 交換・医学部教授等訪問事業&学生への講義

医大4年生の公衆衛生学の講義時に、地域保健
医療の現状について説明に行かせていただきし、
その後に学生に質問。

(平成21年11月19日実施 分担事業者 甲賀保健所 嶋村清志)

今回の見直しで、「地域保健・医療研修」から、「地
域保健研修」が必修ではなくなったことを知ってい
ましたか？

はい 7% いいえ 93%

公衆衛生医師の人材確保、人材育成に関する意見 交換・医学部教授等訪問事業&学生への講義

医大4年生の感想

- ・ 地域保健研修がどんなことをしているか知らな
かったので驚きました。
- ・ 地域の生活に入り込むことの大切さが伝わって
きました。
- ・ 生活者からしてみれば、医師がそこまで地域を
知ろうとしてくれていることはとても嬉しいことだ
と思いました。

「自分が当事者(住民)だったら、どうしてほしいかを考えること。」

- 1 民主性(住民の参加によって)
- 2 総合性(健康の立場から)
- 3 現地性(住民の身近で)
- 4 技術性(最高の技術で)

「地域保健・医療」研修の理念

地域の先生や地域の人々から生き方を学ぶ

「医師は医師だけから学ぶものではなく患者や住民から学んでこそ良医になれるもの」

「人は人から学ぶもの」

研修医とともに学ぶ 医学書院